

2025年3月期 第2四半期(FY2024 2Q) 決算概要

2024年11月5日

千代田化工建設株式会社

(証券コード: 6366)



© Chiyoda Corporation 2024. All Rights Reserved.

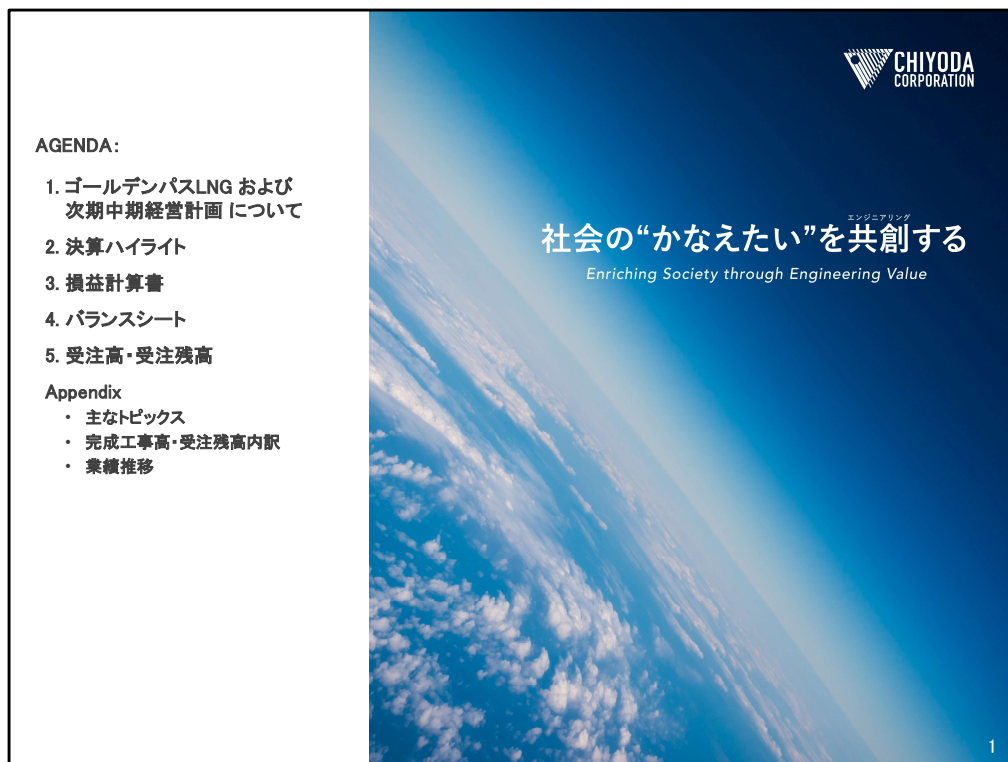
説明者



代表取締役社長
太田 光治



代表取締役専務執行役員 CFO
出口 篤



社長の太田です。

本日は決算説明会にご参加いただき、誠にありがとうございます。
2025年3月期第2四半期決算の概要について、資料に沿って、ご説明申し上げます。

1. ゴールデンパスLNG および 次期中期経営計画 について

ゴールデンパスLNG

- ✓ JVパートナーであったZachry社のプロジェクト離脱を裁判所が最終承認し、正式離脱となった(現地時間8月12日)。
- ✓ 現場工事は、8月から再開済。工事業務の太宗を担っていたZachry社のスコープをCB&I社が引き継いで遂行中。
- ✓ CB&I社とCIC社*による新JV体制下でのEPC契約は、第1系列 と 第2系列/第3系列の二段階に分けて顧客と交渉中。契約締結は年度内に完了予定。合意内容を踏まえ、採算の見直しを実施し、決算に段階的に反映予定。

次期中期経営計画

- ✓ 本年5月に公表予定であったが、ゴールデンパスLNGの状況を踏まえて開示を延期。中・長期的な目線での当社の方向性、戦略を協議中。発表は2025年度期初を予定。

* Chiyoda International Corporation (千代田化工建設の米国100%子会社)



2

最初に米国ゴールデンパスLNGについての最新状況を本日お集まりの皆様
に説明させていただきます。

JVパートナーであったZachry社の正式離脱が、現地時間8月12日に裁判所
より承認されました。

中断していた工事は8月から再開となっており、工事業務の太宗を担っていた
Zachry社のスコープをCB&I社が引き継いで遂行しています。

また、当社とCB&I社の新たなジョイントベンチャー体制でのEPC契約につき、
顧客と協議を進めています。LNGプラントの第1系列と、第2・第3系列の二
段階に分けての契約とし、年度内の契約締結を見込んでいます。

次に、本年5月に公表予定であった次期中期経営計画についてお話しします。
ゴールデンパスLNGの事象を踏まえて開示を延期しておりましたが、
中・長期的な目線での当社の方向性や戦略について、5年後、10年後に会社
を背負う世代の社員を中心としたタスクチームを組成し、検討を進めています。
現状を踏まえ、当社がどのような会社であるべきか、向かうべきはどのような
方向なのかを今一度見直しの上、2025年度期初に発表とする予定です。

2. 決算ハイライト

- ✓ 前年同期比、各段階利益において増益。
手持ち案件の進捗に加え、タングーLNG(完工済)のマイルストーン達成による追加収益の計上等が利益を押し上げ。
- ✓ 受注は、国内脱炭素関連を中心に、足下で引き合いが旺盛。
下期の受注計上を見込む。
- ✓ 利益進捗度は高いものの、上期は上記の一過性要因があったことや、ゴールデンパスLNGの新JV体制下での契約が未締結であることを踏まえ、通期業績予想は据え置く。

CFOの出口です。

右下3ページ「2. 決算ハイライト」をご覧ください。

当第2四半期は、前年同期比、各段階利益において増益となりました。ゴールデンパスLNGを除く手持ち案件の順調な進捗に加えて、昨年度完工したタングーLNGにおいて、性能保証試験合格によるリスク費用取り崩しや、目標生産量のマイルストーンを早期達成したことによる追加収益が利益を押し上げたものです。

二点目は、受注についてです。

上期の受注額は前年同期に比べ低い水準ではあったものの、国内脱炭素関連を中心に足下で引き合いが旺盛であり、下期の受注計上を見込んでいます。

三点目は、業績見通しに関してです。

引き続き、利益進捗度は高いものの、上期はタングーLNGなど一過性の押し上げ要因があったことや、ゴールデンパスLNGの新JV体制下での契約が未締結であることを踏まえ、通期業績予想は据え置きとしています。

3. 損益計算書

(単位: 億円)

	FY2023 2Q	FY2024 2Q	増減	FY2024 通期予想	進捗率
完成工事高	2,717	2,373	△344	4,500	53%
完成工事総利益	177	224	46	330	68%
完成工事総利益率	6.5%	9.4%	+2.9pt	7.3%	-
販売費・一般管理費	△69	△86	△17	△160	54%
営業利益	108	137	29	170	81%
経常利益	141	173	32	200	87%
純利益*	86	142	55	150	94%
為替レート(円/米ドル)	150	143		150	

1 分野別 内訳		
分野	FY2023 2Q	FY2024 2Q
エネルギー	65	148
地球環境	112	75
合計	177	224

* 親会社株主に帰属する当期純利益



4

続きまして、右下4ページ「3. 損益計算書」をご覧ください。

当第2四半期の実績を表の濃い水色の列で、前年同期対比の増減をその右列にお示ししています。

第2四半期の完成工事高は**2,373**億円、前年同期に比べ、マイナス**344**億円の減収となりました。これは、主にインドネシア銅製錬がピークアウトしていることによるものです。

完成工事総利益は**224**億円、前年同期比**46**億円の増加です。
 完成工事総利益率は**9.4%**で、前年同期比**2.9**ポイント改善しています。
 販売費・一般管理費は**86**億円、前年同期比**17**億円の増加です。
 営業利益は**137**億円、前年同期比**29**億円の増加です。
 経常利益は**173**億円、前年同期比**32**億円の増加です。
 純利益は**142**億円で、前年同期比 **55**億円の増加となりました。

なお欄外に注釈をいれておりますが、完成工事総利益の分野別の内訳は、エネルギー分野が**148**億円、地球環境分野が**75**億円となりました。

4. バランスシート

(単位:億円)

	FY2023 4Q	FY2024 2Q	増減		FY2023 4Q	FY2024 2Q	増減
流動資産	4,044	4,157	113	流動負債	4,122	4,041	△80
現金・預金等	1,021	1,131	111	営業負債*3	3,225	3,360	135
営業資産*1	465	413	△52	工事損失引当金	365	348	△17
JV持分資産*2	1,470	1,499	28	固定負債	87	265	178
固定資産	226	229	3	純資産	61	79	18
総資産	4,270	4,385	116	負債・純資産	4,270	4,385	116
				自己資本	49	64	16
				自己資本比率	1.1%	1.5%	0.3pt

*1 営業資産＝受取手形・完成工事未収入金及び契約資産＋未成工事支出金
*2 JV持分資産＝ジョイントベンチャーにおける当社持分に相当する現預金
*3 営業負債＝支払手形・工事未払金＋契約負債(未成工事受入金)

 CHIYODA
CORPORATION

5

続きまして、右下5ページ「4. バランスシート」をご覧ください。

自己資本は、前期末比16億円増加し、64億円となり、自己資本比率は1.5%となりました。

5. 受注高・受注残高

(単位:億円)

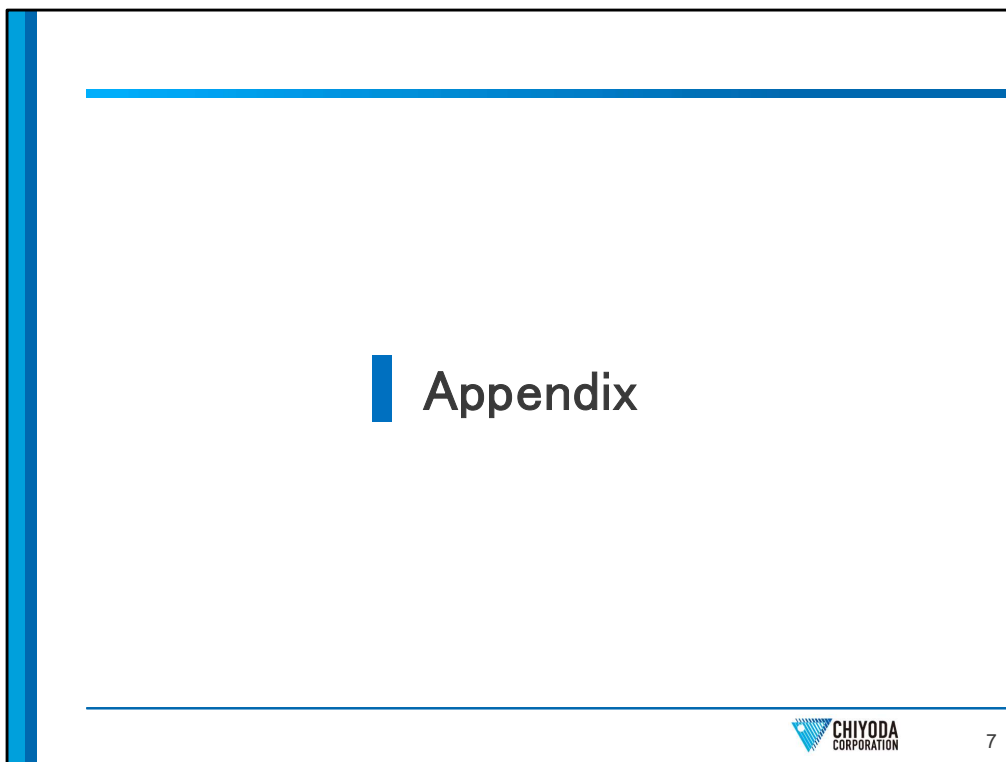
	FY2024 2Q 受注高	FY2024 2Q 受注残高
エネルギー分野	307	6,001
地球環境分野	385	1,995
合計	692	7,996

【受注残高 主要案件】

	1,000億円 以上	500億円 以上	50億円 以上
エネルギー分野	カタール・NFE LNG	米国・ゴールデンパスLNG	—
地球環境分野	—	インドネシア銅製錬	CO ₂ メタネーション設備 バイオ医薬品原薬製造設備 先端素材生産設備

続きまして、右下6ページ「5. 受注高・受注残高」をご覧ください。
当第2四半期の受注高は692億円、受注残高は7,996億円となっています。

受注残高の主要案件はスライド下部の表をご覧ください。



右下 7ページ以降に、当第2四半期を中心とした主なトピックスなどを掲載していますのでご覧ください。

以上で決算概要の説明を終わります。

Appendix

主なトピックス

米国・ゴールデンパスLNG 8月より現場工事を再開



Courtesy of Golden Pass LNG

Appendix

主なトピックス

インドネシア・タンゲーLNGがマイルストーン達成

✓ 昨年完工後、当初計画を大幅に上回るペースでのLNG生産に貢献。



 CHIYODA
CORPORATION

主なトピックス

1BD*¹ 合成燃料製造実証プラント 建設工事を完工

- ✓ ENEOS(株)がNEDO*²助成事業*³に採択され実施する事業。
当社は、実証プラントのEPC業務を遂行。
- ✓ 将来におけるカーボンニュートラル燃料製造技術の社会実装に向け、
水素とCO₂を原料とした合成燃料プロセスの早期の技術確立に貢献。

【案件概要】

顧客	ENEOS株式会社
当社 スコープ	EPC(設計・調達・建設)
建設地	ENEOS中央技術研究所内 (神奈川県横浜市)
製造規模	1バレル/日
完工時期	2024年6月



合成燃料製造実証プラント全体像 (ENEOS(株)提供)

*1 1 Barrel per Day (生産量1バレル/日)、1バレルは約159リットル

*2 国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構

*3 「グリーンイノベーション基金事業/CO₂等を用いた燃料製造技術開発プロジェクト」

主なトピックス

バイオものづくり^(※)の実証基盤「植物バイオファウンドリ」を整備

- ✓ 2022年度からNEDO助成事業^{*1}として産学連携で取り組む「植物による機能性タンパク質の開発」^(図2参照)の一環として、当社子安オフィス・リサーチパーク内に実証設備を建設中。2025年春の稼働開始を予定。
- ✓ 将来的に様々な企業の実用化開発をサポートする国内初の「植物バイオファウンドリ」として機能させる予定で、バイオものづくり分野での社会実装に貢献する。

(※)バイオものづくり：植物や微生物などの生物を用いて物質を生産する技術。原料を化石資源に依存しないため、炭素循環型社会の実現や持続的経済成長に導くものづくりへの変革を期待できる。



図1. 実証設備 鳥瞰図

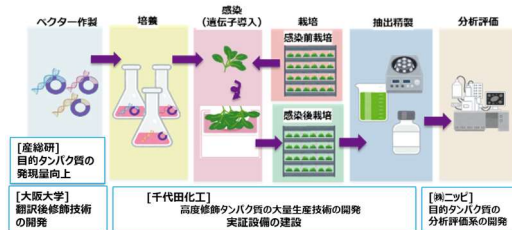


図2. 本事業の開発内容

*1 「カーボンリサイクル実現を加速するバイオ由来製品生産技術の開発」

主なトピックス

◆ 一般社団法人アイディーフォー*1のiPS細胞提供プラットフォームの実証実験に参画

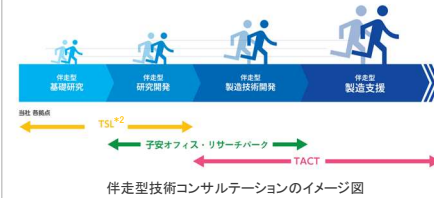
- ✓ 患者～iPS細胞製造機関～製造企業を一気通貫でつなげる「iPS細胞プラットフォーム」を構築し、iPS細胞の産業利用の促進を目指すもの。
- ✓ 当社の細胞に関する経験や知見を活かし、会員企業と共に iPS細胞のデータベース構築や流通経路の最適化を行い、本プラットフォームの事業化を進める。



◆ 筑波大学内に細胞培養加工施設を建設完了、運用開始

- ✓ 筑波大学との共同研究事業の一環で、新たな細胞培養加工施設を建設。
名称：TACT (Tsukuba Advanced Cell Therapy Facility)
- ✓ 産学連携によって、再生医療分野において基礎研究から製造支援まで行う「伴走型技術コンサルテーション」サービス(※)を拡大。
- ✓ 今後、iPS細胞由来のがん免疫細胞の製造工程・技術の確立を目的とするプロジェクトに参画予定。

(※) 製品の上市を見越した研究開発から製造プロセス開発、製造支援までを規制やガイドラインに対応させつつ戦略的かつ技術的な解決策を提供する当社の新規サービス事業。



*1 2020年8月、アイパークインスティテュート(株)及び三菱商事(株)によって設立。
*2 つくば幹細胞ラボ(筑波大学産学リエゾン共同研究センター内)

完成工事高・受注残高内訳

(単位: 億円)

FY2024 2Q 完成工事高

【分野】

エネルギー	1,494	63%
■ LNG・その他ガス関係	1,322	56%
■ 石油・石油化学	172	7%
地球環境	879	37%
■ 医薬・生化学・一般化学関係	107	5%
■ 環境・新エネルギー・インフラ他	772	33%
合計	2,373	100%

【地域】

海外	1,951	82%
■ 中近東・アフリカ	1,082	46%
■ 北中南米	120	5%
■ アジア・オセアニア	747	32%
■ その他海外	3	0%
■ 国内	422	18%
合計	2,373	100%

FY2024 2Q 受注残高

【分野】

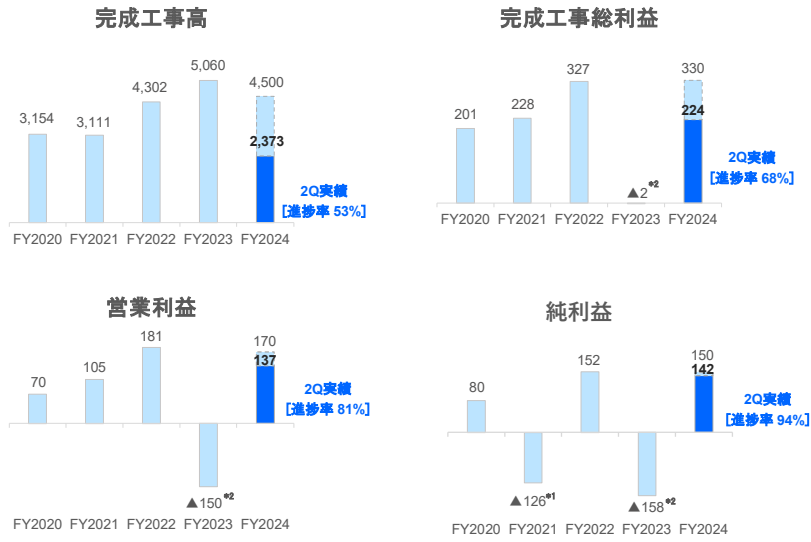
エネルギー	6,001	75%
■ LNG・その他ガス関係	5,747	72%
■ 石油・石油化学	255	3%
地球環境	1,995	25%
■ 医薬・生化学・一般化学関係	916	11%
■ 環境・新エネルギー・インフラ他	1,079	14%
合計	7,996	100%

【地域】

海外	6,490	81%
■ 中近東・アフリカ	4,739	59%
■ 北中南米	811	10%
■ アジア・オセアニア	926	12%
■ その他海外	14	0%
■ 国内	1,506	19%
合計	7,996	100%

業績推移

(単位: 億円)



*1 特別損失 ▲204億円含む(顧客との和解等によるプロジェクト関連損失)
 *2 ゴールデンパスLNGプロジェクトに関連する追加費用▲370億円含む

この資料には、事業戦略・本資料発表時における将来に関する見通しおよび計画に基づく予測が含まれています。経済情勢の変動等に伴うリスクや不確定要因により、予測が実際の業績と異なる可能性があり、予想の達成、および将来の業績を保証するものではありません。従いまして、この業績見通しのみによって投資判断を下すことはお控えくださいますようお願いいたします。

【お問い合わせ先】
千代田化工建設株式会社
総務部 IR・広報・サステナビリティ推進セクション
E-Mail : ir@chiyodacorp.com

